令和４年度福井県立道守高等学校学校関係者評価書（通信制）

（問）
・学校評価書の成果と課題が適切かどうか。
・成果と課題を踏まえた改善策・向上策が適切かどうか。
・その他

（ご意見をお聴きした方々）

・福井県立道守高等学校教育振興会	会長	鈴木　宏治　氏
・福井県立道守高等学校同窓会	会長	平山　吉男　氏
・福井県立道守高等学校福信会	会長	服部　　悟　氏
・福井県立道守高等学校育友会	会長	上島　晴美　氏

（ご意見欄）

〇教育課程学習支援
・タブレットの活用を進めることで在宅の学習が容易になる。Ｗｉ－Ｆｉ環境をどう整備するか、タブレットの持ち帰りの可否をどうするかなど、制度の整備を進めてほしい。
・生徒が多様化していることを受け、一人一人の実情に合わせ、オンラインの学びと教室での学びを組み合わせ、個別最適化した教育ができる通信制のあり方を模索してほしい。
・添削課題に加え、小試験を導入することで、生徒の理解度把握、学習意欲の向上につながらないか。

〇生活支援
・生徒が安心して学校生活を送ることができていることは評価できる。
・部活動で全国大会で活躍した生徒がいることは大変喜ばしい。そのうちの一名は、入学時、保護者同伴でなければ教室に入れなかった生徒であったことを聞くと、部活動をとおして徐々に自信を深め、成長していることが感じられる。

〇進路支援
・卒業後にどこにも進路が決まらなかった生徒の数、学校が続かずにいつの間にか離れてしまった生徒の数を把握し、福祉関係、教育関係の機関とつなげてもらいたい。
・「ふくい若者サポートステーション」と連携し、特色のある生徒の社会参加を促進したことは評価できる。今後もこのような動きを継続、拡大し、卒業後の進路支援を充実してもらいたい。
・進路について考えることが「あまりできなかった」「全くできなかった」と答えた生徒を拾い上げる対策もこれから必要ではないか。

〇生涯学習
・受講手続を行わなかった生徒に対して、学校から遠ざからないような対応を工夫してほしい。すべての生徒に一律ではなく、生徒の実情に合わせ、ＳＣやＳＳＷを積極的に活用し、学習に向かう機会を作り出してほしい。
・「通信道守」で学校や生徒の様子を保護者に理解してもらえている。「通信道守」が生徒と保護者の会話につながっていくことを願う。

〇健康安全
・薬物乱用や喫煙が体へ及ぼす影響への理解が生徒、保護者とも高く、意識の高さがうかがえる。
・健康診断を受診した生徒の割合が低くなっているので、学校全体として健康への意識を高めていくことが望まれるが、任意と取られているところもあり自分から進んで受診しに行くまでは難しいかもしれない。
・清掃を学校と家庭で同じレベルで考えるのは無理がある。学校では「きまり」として清掃活動を行っているのだろう。

〇生徒理解
・学校から離れている生徒を放っておくのではなく、外部の専門機関や他の通信制高校との連携も含めてつながる状態を作ってほしい。
・特定の教員が担当するのではなく、ＳＣをはじめ教員全体で情報を共有し、生徒指導にあたっていることは評価できる。今後も継続していくことを期待する。
・先生が親身になって生徒に関わっていることが生徒の回答からも十分うかがえる。心に悩みを抱えている生徒が、心の拠り所として学校、先生を選んでいることが分かる。今後とも生徒に寄り添った学校方針を続けてほしい。

〇全体（総括）
・全項目で目標数値を達成してもなお、課題を見つけ、次の改善策につなげている。引き続きより高い目標に向けて努力してほしい。
・通信制は週一回の登校なので、生徒にあう面とあわない面がある。授業は「レポート課題」が中心になり、自学自習が大切になることを生徒本人だけでなく、保護者にも十分理解していただき、家庭でも生徒の生活をバックアップ頂けるよう依頼してほしい。

〇学校関係者評価を踏まえた今後について
・学校の取組みに対して、十分な評価をいただいた。今回、学校関係者評価委員の方からのご意見やご指摘を真摯に受けとめ、次年度に向けた目標設定（スクールプラン）に生かし、生徒たちがより良い学校生活が送れるよう取り組む。
・受講生徒数が増える中で、よりよい教育を生徒に提供できるよう、オンライン化も含め、通信制のシステムを見直す。